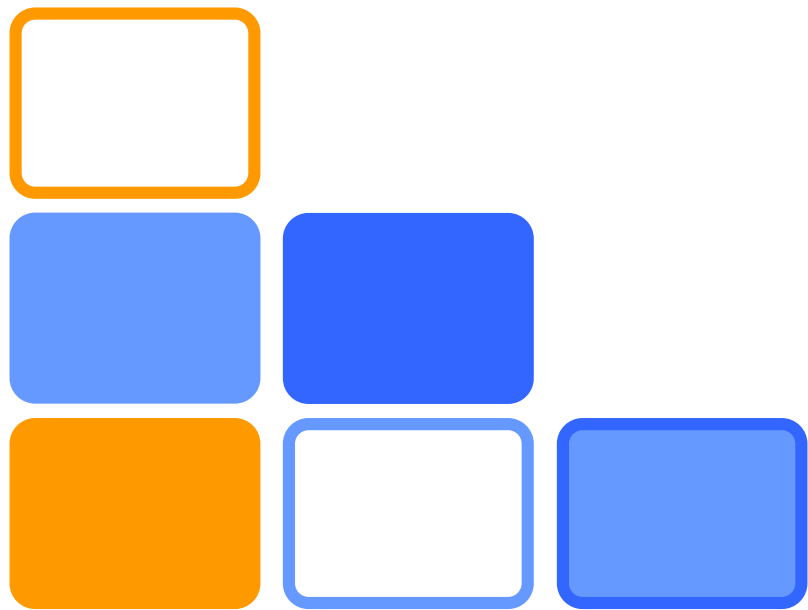


G I G A スクール構想に基づく 1 人 1 台端末の円滑な利活用に関する調査協力者会議」(第 3 回)資料

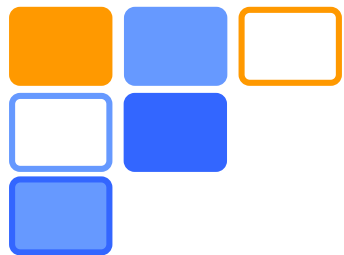
特別支援学級・通級指導教室における 1 人 1 台端末の円滑な利活用について



令和 3 年 8 月 3 0 日 (月)

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会会長

江東区立豊洲北小学校統括校長 喜多好一



お伝えしたいこと

- 1 「GIGA スクール構想に係る全国調査」を踏まえた一人一台端末を活用している現状と課題について
- 2 一人一台端末の利活用の事例について
- 3 今後の一人一台端末の利活用に向けて



1 「GIGA スクール構想に係る全国調査」を踏まえた一人一台端末を活用している現状と課題について

I 調査目的

全国の特別支援学級・通級指導教室設置学校の課題を把握するとともに、今後の特別支援教育の推進や充実、国への提言等を検討するための基礎データとする。

II 調査対象

各都道府県において知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級及び通級指導教室を設置する小・中学校の校長（全特協の各地区理事を通して、約10%の抽出）

III 調査期間

令和3年8月16日（月）～ 令和3年9月3日（金）

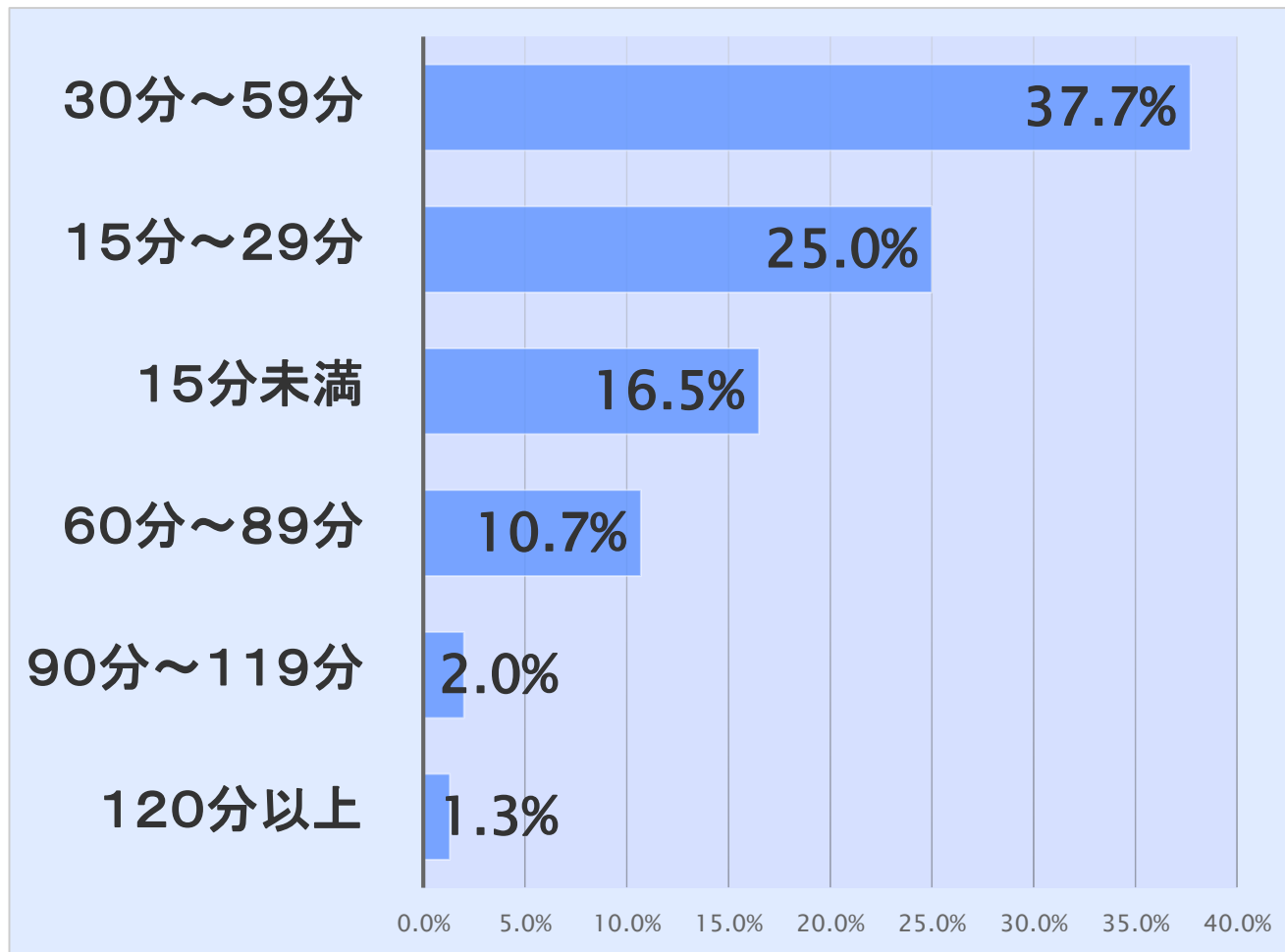
※本発表で示す調査結果は、8月23日現在の速報値を基に作成

IV 調査内容

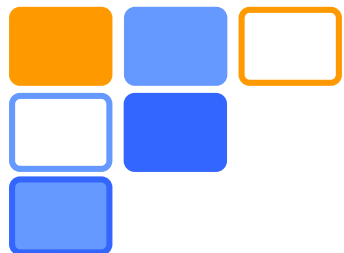
- ・ 特別支援学級等におけるGIGAスクール構想の進捗状況
- ・ デジタル教科書の活用状況について



一日当たりのタブレット端末等の使用平均時間

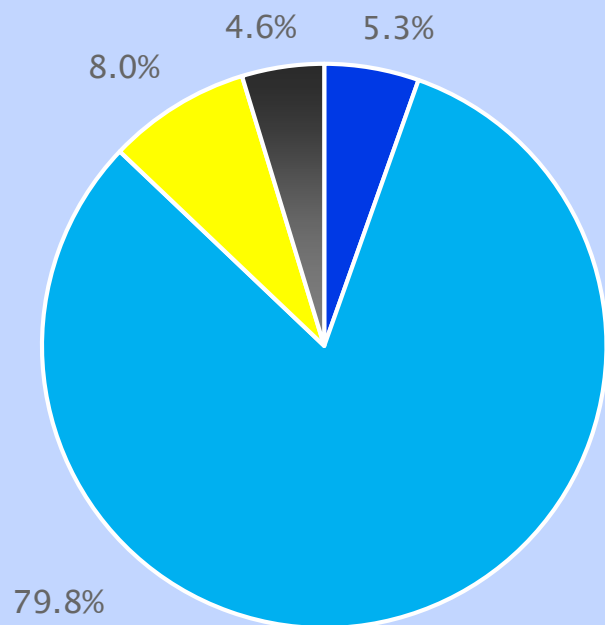


- ・ 一日当たりの使用時間は、15分～59分が63%と回答。
 - ・ GIGAスクール構想が始まったばかりであることから、一日60分以上の使用は、10%に止まる。
- ※ 高速大容量ネットワーク工事が進むとともに、利活用の事例が共有されれば、使用時間は伸びることが想定される。

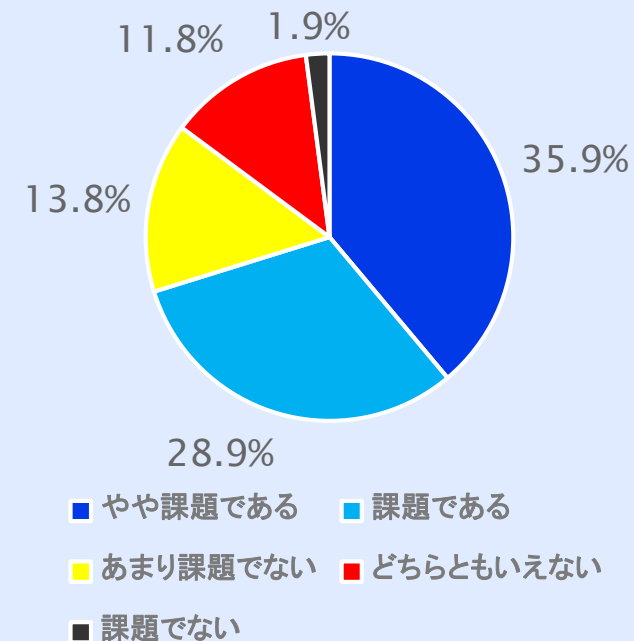


保護者への理解啓発・情報共有など、 家庭との連携

タブレット端末の活用状況について

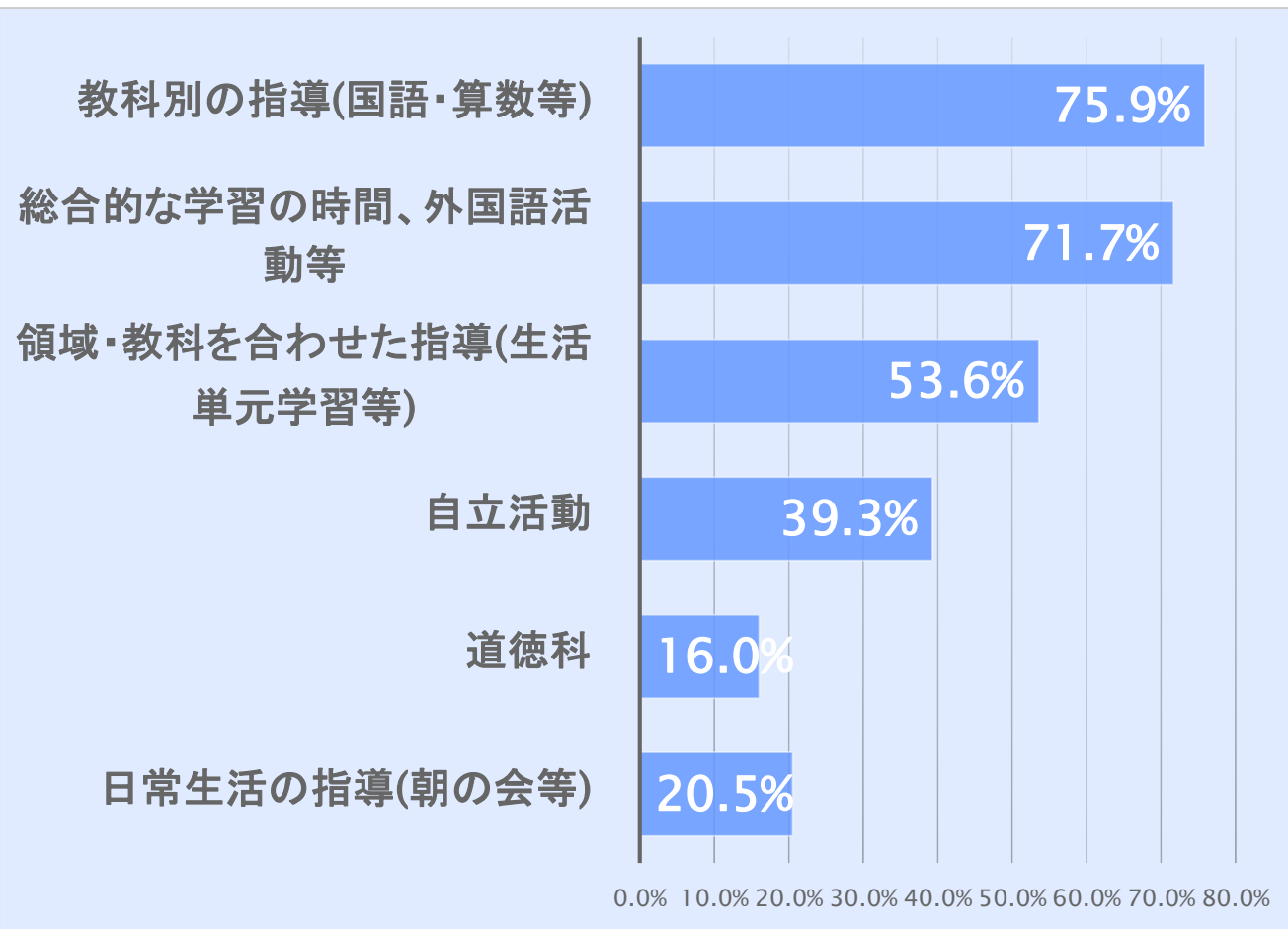


- 児童生徒が毎日持ち帰り、宿題や自主学習等に活用している。
- 普段は持ち帰らずに、学級等で保管して活用している。
- 個々の障害の程度や個別の実態に応じて異なっている。
- まだ配備されていない。



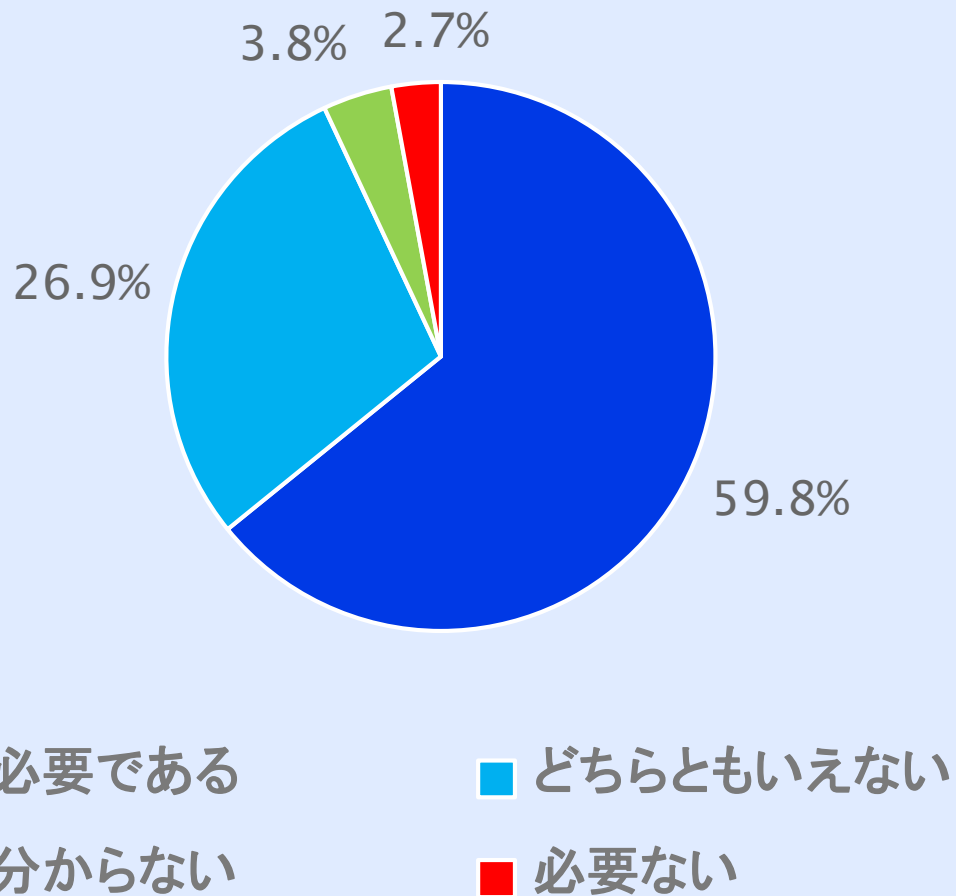
- ・ 主に学級等での活用が約80%。
- ・ 毎日の持ち帰りによる活用が5.3%と低い数値の背景には次の要因が考えられる。
 - 障害のある子が自宅に持ち運びによる破損が心配。
 - 保護者によるタブレット端末の学習支援が困難。
 - 家庭内のネットワーク回線が未整備。

タブレット端末等の学校生活での活用場面

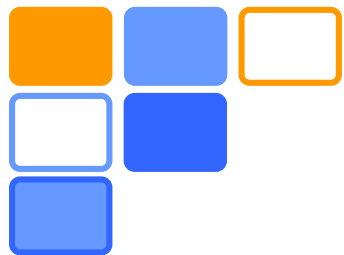


- ・教科、生活単元学習等の授業での活用が50%を超えている。
- ※自立活動での活用が39.3%と他の教科等と比較して低い。自立活動における端末の活用を図っていくことが必要。
- ※日常生活の指導における利活用例の報告があることから、今後の活用時間も増えると思われる。
- ※特別支援学級、通級指導教室に回線が未整備の自治体がある。すべての教室にLAN環境が必要。

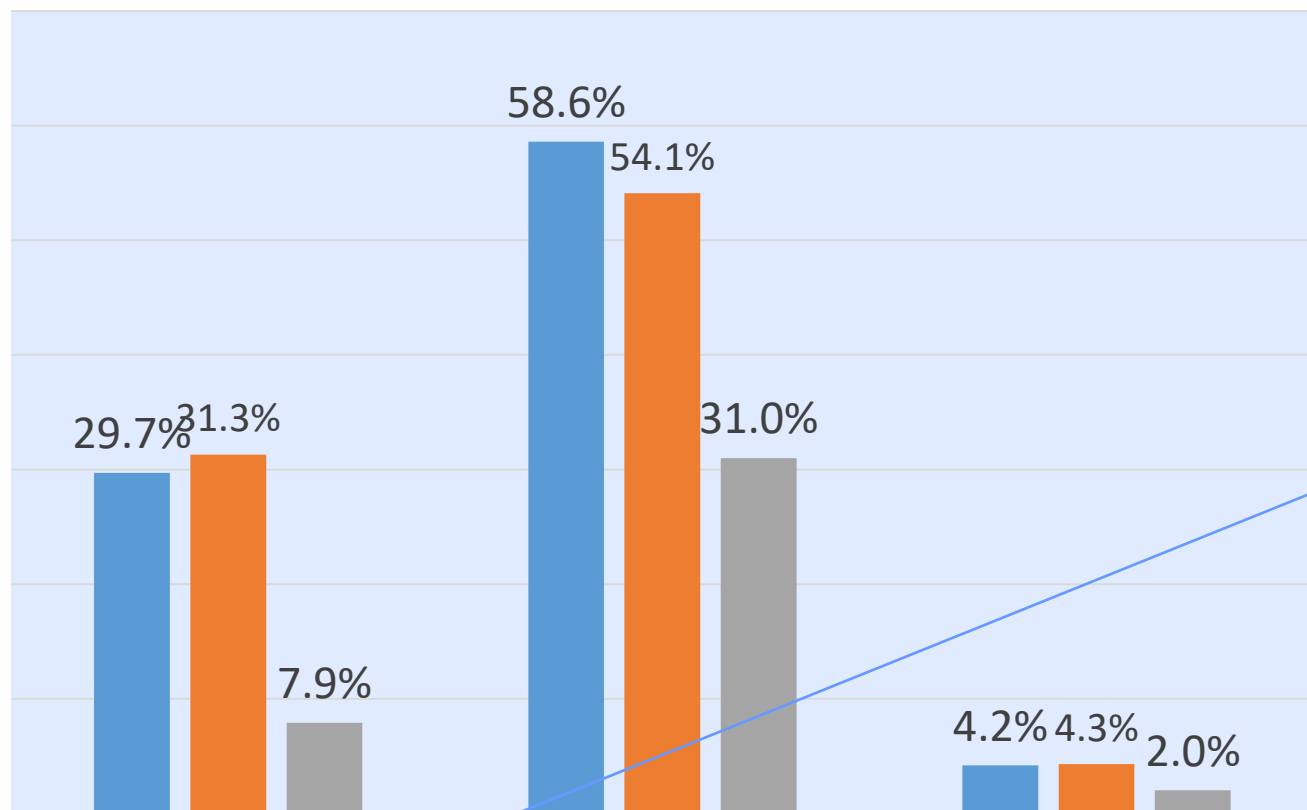
学習者用デジタル教科書の必要性について



- ・ 学習用デジタル教科書は、約60%が必要と回答。
- ※障害のあることにとって、文字や文章・絵・図等の拡大、ルビ振り、切り取りができたり、読み上げができたりできるデジタル教科書は有効である。今後の整備が望まれる。

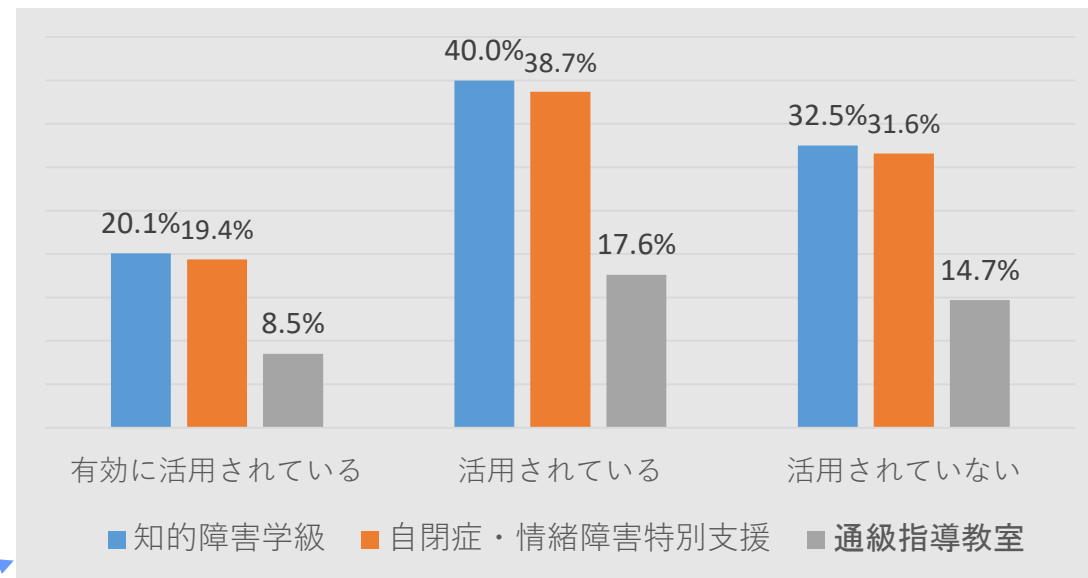


指導者用デジタル教科書の整備・活用状況

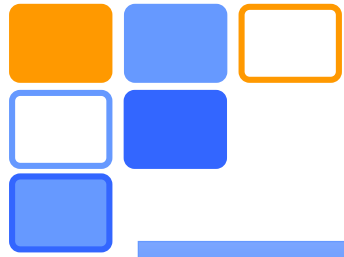


整備されている 整備されていない これから整備される

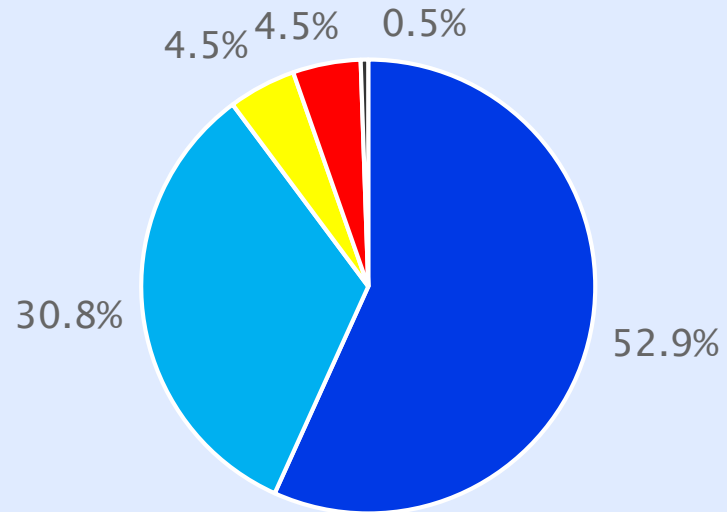
■ 知的障害学級 ■ 自閉症・情緒障害特別支援 ■ 通級指導教室



- ・ 指導者用デジタル教科書が整備されているのは約30%。
 - ・ 整備されている学校では、約60%が有効性があると回答。
- ※通級指導教室も含めて早急に整備が求められる。

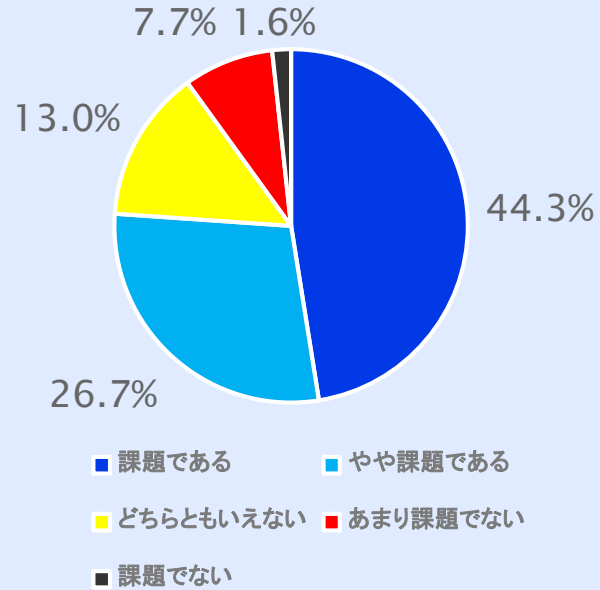


教員の専門性向上のための研修



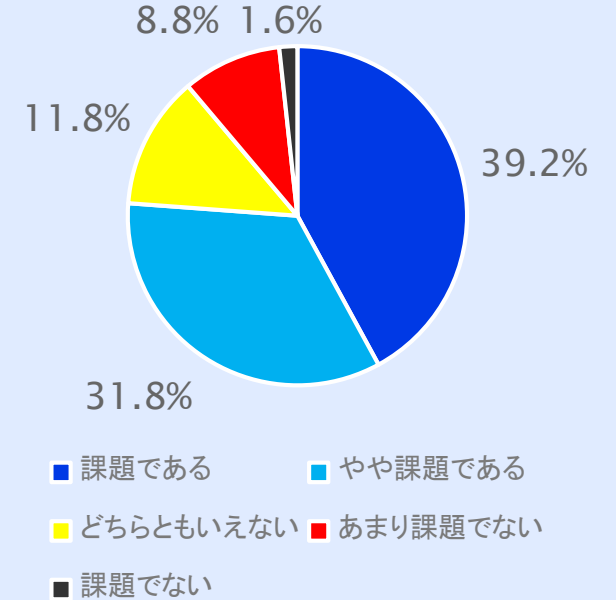
- 課題である
- やや課題である
- どちらともいえない
- あまり課題でない
- 課題でない

指導・校内支援体制の整備



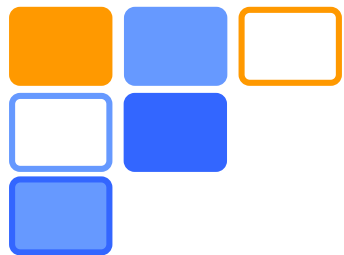
- 課題である
- やや課題である
- どちらともいえない
- あまり課題でない
- 課題でない

ICT支援員等の外部人材の活用

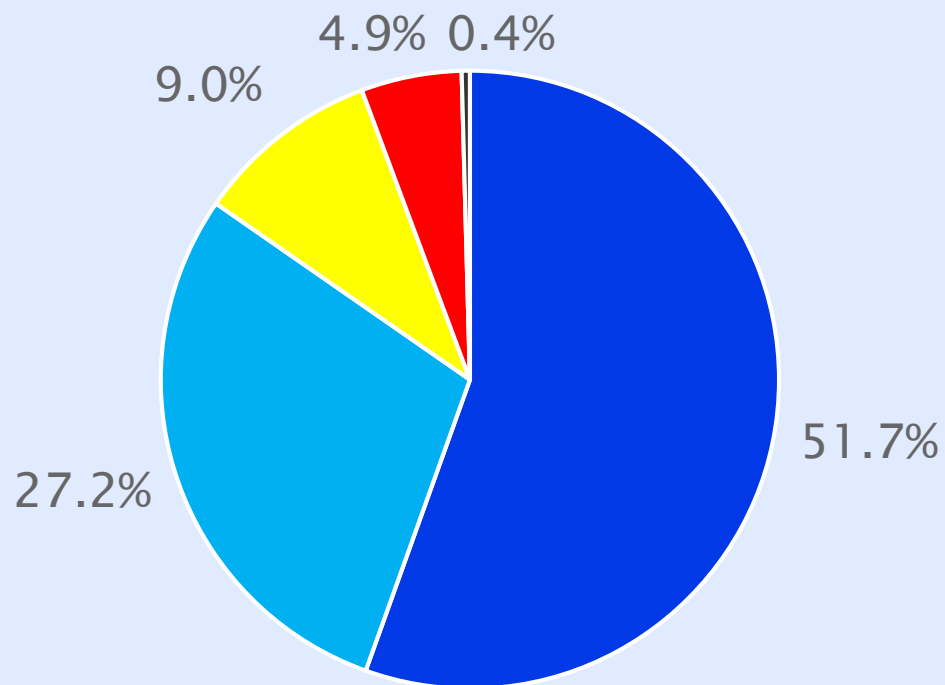


- 課題である
- やや課題である
- どちらともいえない
- あまり課題でない
- 課題でない

- ・研修に関しては、約84%が課題があると回答。
 - ・タブレット端末活用に長けた教員が在籍する学校では、研修が効果的にされているが、多くの学校が試行錯誤している。
 - ・校内の指導・支援体制等も、約70%が課題があると回答。
- ※ICT教育支援アドバイザー等の増員あるいは専門性のある企業、専門家からのサポートが必要である。



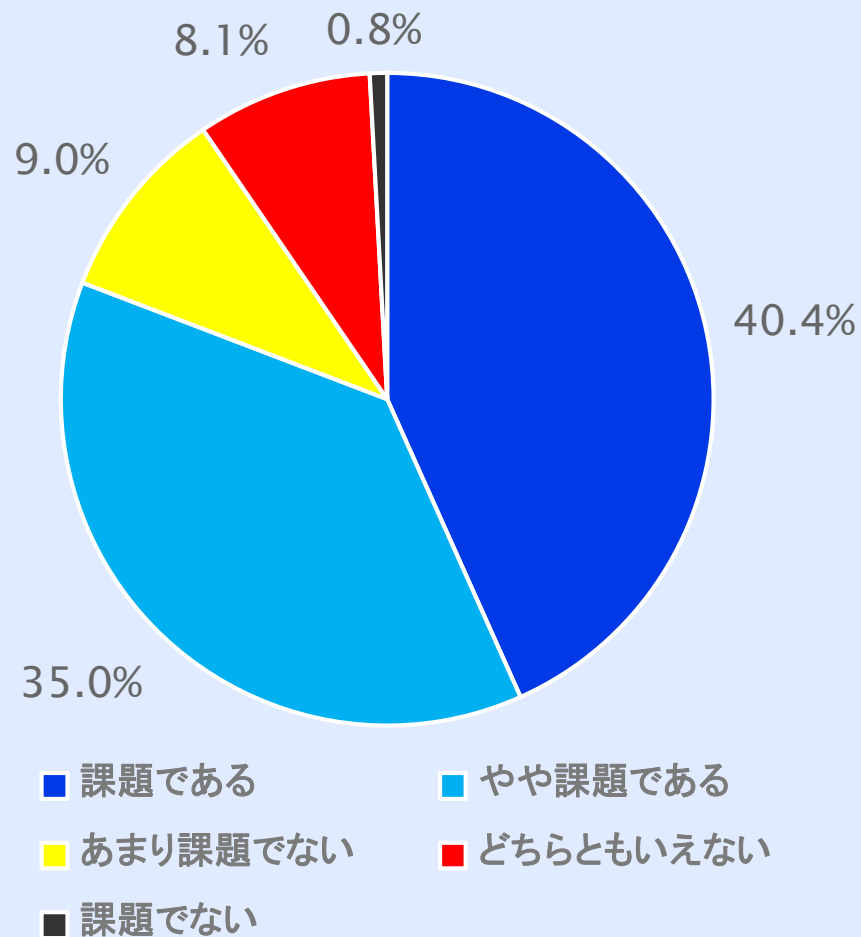
アプリケーションソフトの充実



- 課題である
- やや課題である
- どちらともいえない
- あまり課題でない
- 課題でない

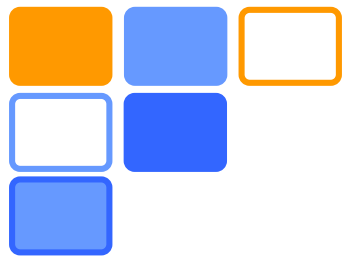
- ・教育ソフトの充実に関しては、約80%弱が課題と回答している。
- ・OSは主に三種類から自治体ごとに選定しているが、特別支援教育で活用できるアプリに関しては、偏りがある。
- ※OSが違ってても共通で活用するアプリの開発が求められる。
- ※アプリのインストールの制限の撤廃も必要である。
- ※教育支援ソフトに関しては、自治体格差が生じている。

周辺機器を含めたICT環境のさらなる整備

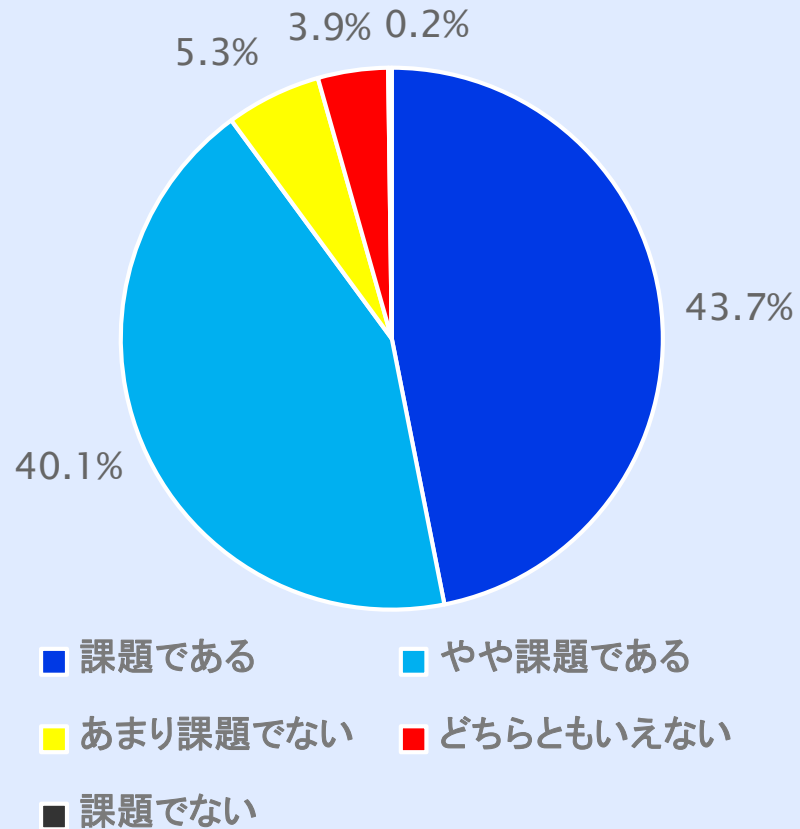


- ・ タブレット端末以外の周辺機器、ICT環境の整備については、約80%が課題であると回答。
- ・ 特別支援学級等では、タブレット端末と大型モニターやプロジェクタ、書画カメラを併用した利活用の報告ある。

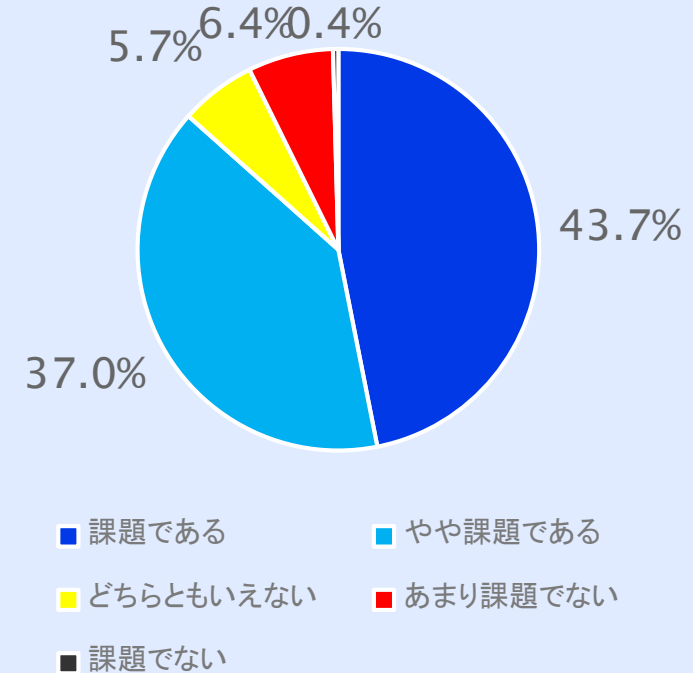
※周辺機器の環境整備が促進されると、タブレット端末がさらに活用できる環境が整うため、整備を求めたい。



実践事例や指導法などの情報収集



情報モラルを含めた取扱いルール徹底



- ・タブレット端末を活用した実践事例や指導法などの情報収集に関して、約84%が課題と回答。
- ※特別支援教育においてタブレット端末を活用した指導実践少ないことから、今後、情報モラル教育も含め、事例集等が求められる。



2 タブレット端末の特性を生かした利活用について


知的障害の主な特性

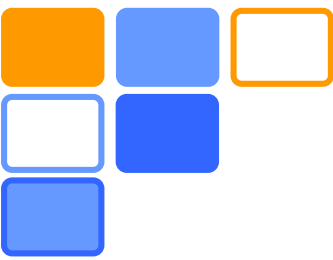
- ・ 抽象・統合・推論等な思考が苦手
- ・ 学習で得た知識や技能が断片的になる
- ・ 興味・関心の幅が狭い
- ・ 実際的な生活経験の不足
- ・ 集中力が長時間、継続しない

発達障害の主な特性

- ・ 言葉では見通しがもちにくい
- ・ ワーキングメモリが少ない
- ・ 衝動性が強く、多動である
- ・ 相手の気持ちが読めない
- ・ 書字読字に課題がある
- ・ 推論等が苦手
- ・ 集中力が短い

タブレット端末の活用

- 
- **提示ツール**…実物の静止画や動画など、視覚的な情報の提示
 - **記録ツール**…メモや撮影の記録を保存
 - **検索ツール**…必要な情報を得るために調べる
 - **発表ツール**…プレゼンテーションの作成
 - **共有ツール**…複数の資料を共有して交流、オンライン機能
 - **アプリによる支援ツール**
…漢字、書き順、計算等の学習アプリ、生活支援アプリ



特別支援学級における利活用の事例

□記録ツール

- ・カメラ機能の活用し、撮影した写真にコメント、絵を書き入れて図工の作品を作成した。
- ・自立活動の時間に、体の動きの動画に撮り、確認をする。
- ・発音などの自身の学習を動画として記録し、学習の確かめをする。
- ・カメラ・ビデオ機能を使い、漢字を撮影し、それを拡大して線やはねなどの確認をする。

□共有ツール

- ・特別支援学級がタブレットを活用して作成した野菜作りの動画などを、全校朝会などで紹介
- ・不登校、病弱のこどもとのオンライン朝の会、授業を実施した。
- ・交流学級に行くことができない場合、交流学級と特別支援学級をGoogle Meetなどでつなぎ、交流学級での学習を継続した。

□アプリによる支援ツール

- ・音楽アプリを活用し、ピアノやギターの楽器を引く練習、キーボード練習をした。
- ・数の合成分解をゲーム感覚でできるスクラッチのソフトを活用した。



通級指導教室における利活用の事例

□記録ツール

- ・不器用さや感覚の過敏さを改善するための感覚統合、体幹トレーニング、ビジョントレーニングなどの模範運動を動画視聴をして個別支援する。

□アプリによる支援ツール

- ・ノートに書き込むことに困難さのある子供に、キーボードを打ち込むことで書字学習をしたり、板書をカメラ機能で記録したりした。
- ・視覚的に情報を処理することが苦手な子どもに対して、音声機能が付いているデイジー教科書を活用した。
文章読解が苦手な子供に、文章の行ごとにハイライトにして提示した。

□共有ツール

- ・個々の児童と直接やり取りするコミュニケーションボックスを設定した。

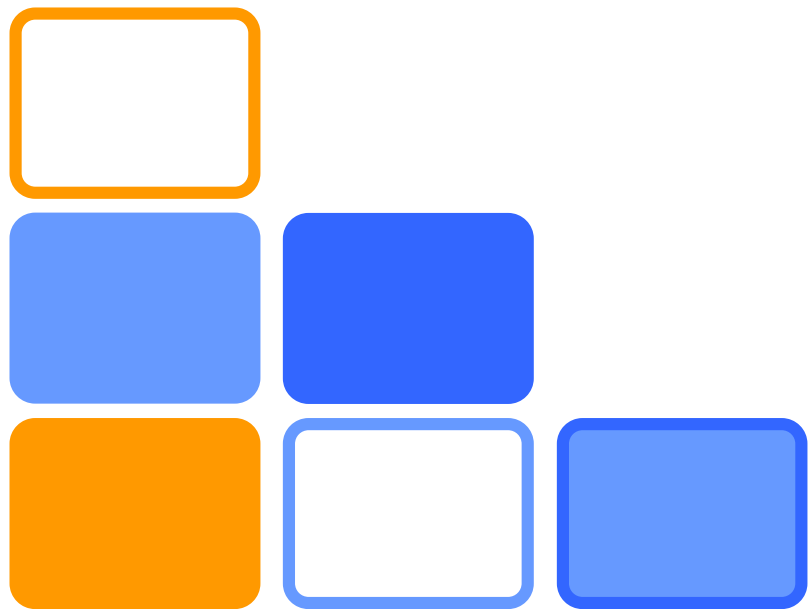


3 今後の一人一台端末の利活用に向けて

- ① 全ての特別支援学級児童が使用できる一人1台端末の配布
- ② 全ての特別支援学級、通級指導教室にネットワーク回線の整備
- ③ 専門家等の人的支援（ICT支援員など）の増員
- ④ どのタブレットでも無料で安全にダウンロードできるアプリ開発
- ⑤ 学習者用・指導者用デジタル教科書の配布
- ⑥ タブレットを生かす周辺機器の整備
- ⑦ タブレットを活用した実践事例集とのデータベースの充実

G I G A スクール構想に基づく 1 人 1 台端末の円滑な利活用に関する調査協力者会議」(第 3 回)資料

特別支援学級・通級指導教室における 1 人 1 台端末の円滑な利活用について



令和 3 年 8 月 3 0 日 (月)

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会会長

江東区立豊洲北小学校統括校長 喜多好一